

2011年秋号 仙台市 農政だより



発行 仙台市経済局農林部(農政企画課、農業振興課、農林土木課)
〒980-8671 青葉区国分町3丁目7-1 電話 022-214-8265(農政企画課) FAX 022-214-8338
ホームページ http://www.city.sendai.jp/business/d/keizai_03.html
Eメール kei008110@city.sendai.jp (農政企画課)



若林区下飯田にて

津波の被災を受けた東部地区の水稲や転作大豆の生育状況を確認するため、9月27日(火)、奥山市長が農業視察を行いました。
はじめに、若林区下飯田地区の除塩地において稲の生育状況を確認しました。こちらは霞目雨水幹線の西側エリアで、津波の浸水を受けたほ場でしたが、代かきを繰り返して土壌の塩分を抜き、5月下旬に無事、作付けを行うことができました。
市長も津波の影響が作柄にどう響くか懸念していましたが、順調に生育している稲穂を確認し、安

大震災を乗り越え 実りの秋 到来

奥山市長が農業視察を行いました



頭を垂れる稲穂

堵していました。
生産者の大友さんからは、除塩後の栽培管理や、今後の農業復興に向けた思いなどについてお話を伺い、市長は「今年稲作を頑張つてやってくださった皆さんの体験は、来年以降の営農再開に向けて、明るい希望になる」と話していました。
次に向かった同区荒井地区では、津波被害を受けたほ場のがれき等をいち早く撤去し、転作大豆を作付けした下荒井生産組合のほ場を



転作大豆の生育状況を確認

視察しました。組合長の今野さんによると、大豆の葉先が変色するなど、一部生育不良の箇所が点在し、塩害の影響が出ているとのこと。一日も早い排水設備の復旧等について、ご要望をいただきました。

視察を終えた市長からは、「このように一定の可能性が開けるまでに努力された農業者の皆さんに、心から感謝と敬意を表します。私たちも、農地の早期復旧に向け、まずは排水機能の回復、がれき撤去等に全勢力を挙げて取り組んでいきます」との話がありました。

【農政企画課企画調整係

214-8265】

今後の作付け予定計画 について

津波により被災した農地での営農再開については、東部地域では仙台東部道路周辺の約500ヘクタールの農地で、太白区四郎丸地区では50ヘクタールの全ての農地で、平成24年度に稲作等を開始したいと考えています(左図1参照)。

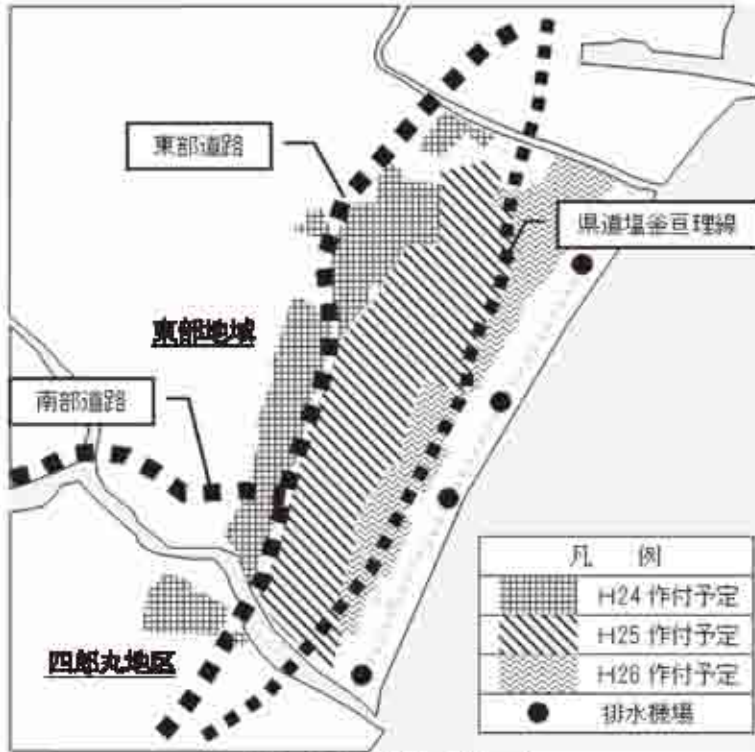


図1 今後の作付け予定計画図

また、東部道路東側の農地についても、段階的に作付け可能な農地を拡大していく予定です。市で行っているがれきの撤去が完了した農地については、引き続き、復興組合において草刈り、ごみ等の除去をお願いします。具体的作付については、JA仙台チャレンジプラン推進委員会等で合意形成を図り、推進していきます。

東部地域の復旧工事について

東部地域(仙台東土地改良区管内)の農地では、国の直轄災害復旧事業により、農地及び農業用水利施設を復旧する工事が計画的に実施されます。

1. 排水機場の仮復旧

【工期】平成23年11月～平成24年6月(予定)

津波で被災した市内4カ所の排水機場については、被災したポンプを仮復旧し、震災前の排水能力を回復させます。

2. 用排水路、樋門、ポンプ場の仮復旧

【工期】平成23年11月～平成24年3月(予定)

来年度作付け予定の農地で除塩が行えるように、施設の機能を回復させます。

四郎丸地区の復旧工事について

四郎丸地区の農地については、平成24年度の作付け再開に向けて、名取市地区とあわせて県営

事業により平成24年1月から除塩工事が実施されます。

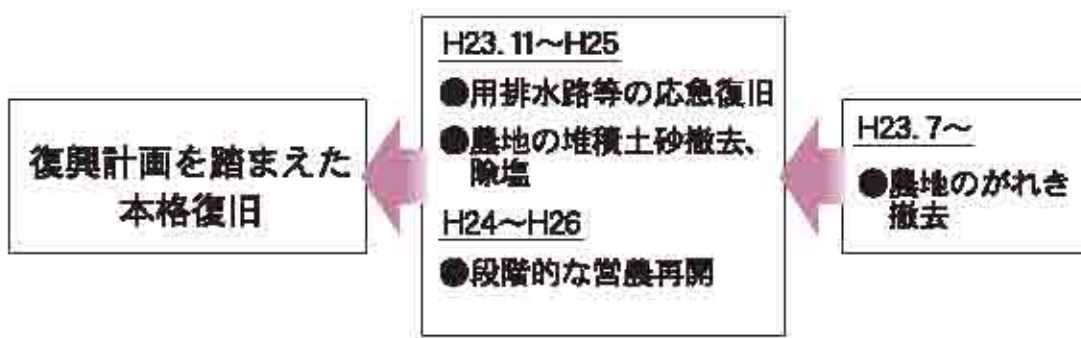


図2 東部地域の復旧工事の進め方

【農林土木課整備係】
214-8268

生産技術情報 野菜

土壌病害

ナス、トマトといった夏野菜の収穫も終わりましたが、今年度の病害の発生は多かつたでしょうか。土壌中の細菌やウイルスが原因で発生する「土壌病害」は、土壌中で病原菌が越冬するため、来年度も再び発生することが予想されます。ナス科の青枯れ病、アブラナ科の萎黄病、根こぶ病、レタスなどのすそ枯れ病、様々な植物に発生する炭そ病などが多く発生するような場合は、輪作や土壌消毒等の対策が必要です。

○薬剤による殺菌

ダゾメット粉粒剤（商品名：バスアミド微粒剤）のような薬剤は、菌類の殺菌の他にセンチュウにも効果があります。土壌中の水分により分解され、殺

菌効果のあるガスが発生するので、施用する際は、作物の残渣を取り除き、必ず表土をピニール等で被覆して有効なガスが抜けないようにします。

また、土壌が乾燥している場合は、効果の低下や、薬害を生じるおそれがあるので、薬剤の土壌混和後に散水してから被覆します。また、地温により被覆期間を変えることも必要です。（表1参照）

地温	被覆の日数
25℃以上	7日～10日
20℃	10日～14日
15℃	14日～20日
10℃～15℃	20日～30日以上
10℃以下	使用しない

表1 地温による被覆期間の目安

被覆後は十分にガス抜きをしましょう。

○薬剤使用に当たって

医薬用外劇物に指定されているので、使用に当たっては容器に記載されている注意事項をよく読んで使用してください。

また、刺激性があるので、目や手に付着しないように気をつけ、万が一付着してしまった場合は、すぐに使用を中止し、医師の診察を受けましょう。

○土壌消毒後

土壌消毒は、土壌の化学性、生物性に大きな影響を与えます。土壌の化学性への影響として、マンガンの増加が知られており、植物の上の葉が黄色くなつてきます。土壌の生物性への影響として、硝酸化成菌などの微生物が減少することが知られています。こうなると、土壌中にアンモニアが蓄積し、生育障害が発生する恐れがあります。土壌中のアンモニアは、pHが高まるとガス化するので、石灰などのpH

を上げる資材の施用は控えましょう。また、アンモニア態窒素を主成分とする肥料（硫酸塩安、硝安等）や分解後にアンモニア態窒素となる肥料（尿素等）の施用は特に控えましょう。

○まとめ

冒頭に述べたとおり、土壌病害は一度多発すると、毎年のように発生することが予想されます。土壌消毒は、病原菌を死滅させることができますが、完全になくすることはできません。そのため、「排水の良い畑にする、輪作を行う」、「病気の発生がなにか注意深く観察し、病気の発生した株は、ほ場の外に廃棄する」、「機械等を媒介して他の土壌に伝染することを防ぐ」といった基本的な予防が最も効果的です。

【仙台市農業園芸振興協会

288-11771】

生産技術情報 土づくり

総合的な土づくりを

畑の土壌は年ごとに劣化が進んでいるといわれています。地力を高め、化学肥料に依存しない栽培に有機物の施用は大切ですが、それだけで改善できるとは限りません。化学性、物理性、生物性、経済性などを考慮した総合的な取り組みが大切です。

項目	目標値	備考	
物理性	作土の深さ	20~30cm	根菜類
	地下水水位	60cm	
	ち密度	20mm	
	気相率	15~30%	
化学性	pH	6.0~6.5	腐植の増加と粘土投入
	CEC(陽イオン交換容量)	15~20meq/100g	
	交換性石灰	200mg/100g	
	交換性苦土	40mg/100g	
	交換性加里	20mg/100g	
	石灰苦土比	5	
	苦土加里比	2	
有効態リン酸	20~50mg/100g		

表2 土づくり目標

	pH	EC	養水分の移動	塩基類	硝酸態窒素	有効態リン酸	ガス障害
露地	低い	低い	下方	溶脱型	少ない	少ない	起きない
施設	高い	高い	上方	集積型	多い	多い	起きやすい

表3 露地畑と施設畑の土壌の違い

畑の土づくりは、表2のような土壌状態を目標とします。このような土壌は作土が深く、地下水位が低いいため、根が深くまで入ります。また、ち密度が低く、気相率(空気の割合)が多い土壌は、水や空気の通りがよい土となります。化学性(栄養面)は、石灰、苦土、加里が過不足なく、バランスよく含まれている土を目標とします。

ただし、露地畑、施設畑の違い(表3)や土質により、肥料や改良資材などの施用量が大きく変わります。

また、野菜にはそれぞれ適した土壌酸度(pH)があります。(下図3)一般的な野菜の目標pH値は6.0~6.5ですが、作物によってはあてはまらないものもありますので注意が必要です。

作付けの都度、石灰資材やリン酸肥料を施す習慣がついている方が多く、これまで農業園芸センターで分析を行った土壌の多くは、施設のみならず露地畑においても、交換性石灰とリン酸の値が目標値を超えるものが多く、資材費の損失、環境への負荷や生理障害の発生などマイナス面が懸念されます。

特に同じ肥料や改良資材を長く使い続けている方は、土壌分析を行い、総合的な土づくりに努めましょう。

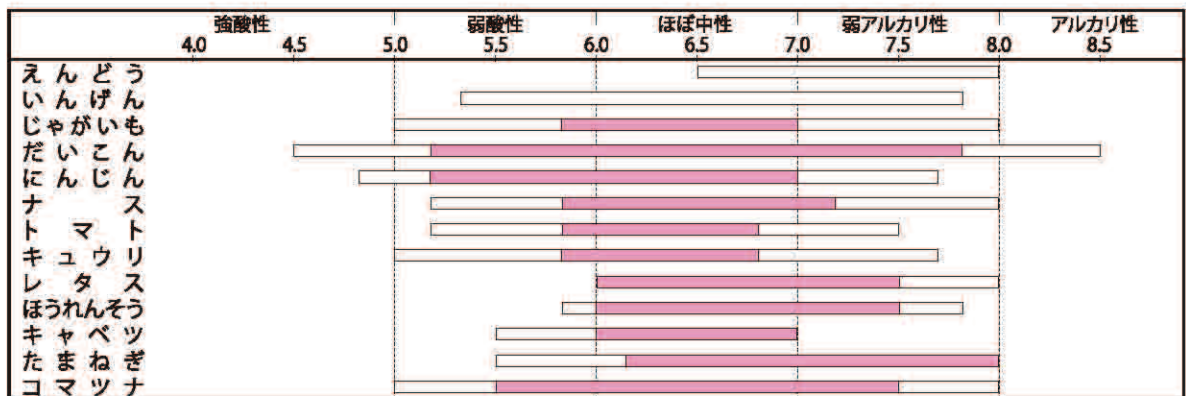


図3 主な作物の適するpH範囲

【仙台市農業園芸振興協会

288-1771】

仙台市からのお知らせ

第23回仙台市

収穫まつり IN 泉

を開催します

食育や地産地消の推進をテーマに開催している「仙台市収穫まつり」を左記のとおり開催します。



今年、被災した仙台市農業園芸センターから泉中央に場所を移し、仙台産野菜、米、漬物や鉢花等の販売、地産地消講演会などを行います。是非足をお運びください。

日時

11月19日(土)、11月20日(日) いずれも9時～15時

場所

地下鉄泉中央

ペDESTリアンデッキ

※雨天時は内容変更あり

【仙台市農業園芸振興協会

288-11771】

新たな取り組みに関するご相談を受けています

農業者が新たに米や野菜を加工して販売を行う事業には、国の認定制度があります。

認定を受けることで、加工施設や直売所の整備に対する補助金や整備資金の融資を受けることができますので、お考えの方はご相談ください。

また、農産物の飲食店への販売や規格外野菜の売り先、農産物を使った新しい商品開発などへのお手伝いもしておりますのでお気軽にご相談ください。

【農政企画課農商工連携推進室

214-18266】

仙台市農業園芸センター一部再開のお知らせ



現在のセンターの様子

仙台市農業園芸センターは東日本大震災の津波の被害を受け、施設再開に向けて復旧作業を進めてきましたが、施設の一部が復旧したことから、バラ園・梅園などを含む公園と休憩棟の利用を、平成23年10月7日から再開しました。

大温室や売店・食堂などの営業及び園内でのイベント実施に

については、当面休止になり、今後はセンター周辺の復旧状況及び来園者の動向などの推移を踏まえながら、段階的に再開する予定です。

【仙台市農業園芸振興協会

288-11771】

肥料・飼料等の放射性セシウムの暫定許容値が設定されました

農林水産省により左記のとおり肥料・飼料等の放射性セシウムの暫定許容値が設定されました。

堆肥や粗飼料等を購入する場合は、販売業者等に生産・保管方法を確認しましょう。

	暫定許容値 Bq/kg
堆肥 土壌改良資材 培土	400
飼料 (牛、馬、豚、 鶏、うずら用)	300

【農業振興課生産振興係

214-18335】

野菜販売力アップ講習会を開催します

テーマ「生産物の魅力を高めた商品づくりをしよう」

「良い材料でつくる加工品は販売力アップ」

●日時

12月1日(木)

13時30分から15時30分

●募集人数 30名程度

●講師 福原寿枝氏

●開催場所

七郷市民センター調理実習室

▼申込み

11月24日(木)まで住所、氏名、電話番号を左記までお知らせください。

【仙台市農業園芸振興協会

288-11771】

「土壌診断の結果を

読み解く」参加者募集

より良い農産物を生産するには「土づくり」が重要です。土

壌分析の結果をもとに、過剰施肥や土壌の塩基バランスの崩れをなくす最適な施肥を導き出す技術を学び、肥料の使用量削減と施肥設計の見直しのための検討会を行います。

①ハウス野菜コース

●日時

12月13日(火)

13時30分から15時30分

●募集人数

10名程度(複数申し込み可能)

●講師 J A 仙台 安井孝臣氏

●開催場所

J A 仙台六郷支店第3会議室

②露地野菜コース

●日時

12月15日(木)

13時30分から15時30分

●募集人数

10名程度(複数申し込み可能)

●講師 J A 仙台 安井孝臣氏

●開催場所

J A 仙台六郷支店第3会議室

③水稲コース

●日時

1月19日(木)

13時30分から15時30分

●募集人数

10名程度(複数申し込み可能)

●講師

電気化学工業(株)横山達平氏

●開催場所

J A 仙台六郷支店第3会議室

▼申込み

11月24日(木)まで希望コース、住所、氏名、電話番号を左記までお知らせください。

【仙台市農業園芸振興協会

TEL 288-11771

FAX 288-11772】

耕作放棄地の維持管理についてお願い

仙台市西部地域では、イノシシ

シによる農作物被害報告が多数寄せられています。

被害の拡大を防ぐためには、

イノシシが出没しにくい環境を

作ることが大切です。

また、イノシシが出没する地

区には耕作放棄地の存在が確認されています。

耕作放棄地はイノシシが隠れるのに都合な場所となることから、草刈り等を行うなどしてイノシシの出没しにくい環境づくりに努めるようにしましょう。

仙台市では、地域の皆様などのご意見・ご意向を伺いながら耕作放棄地解消に向けた取り組みを行っています。

耕作放棄地の再生利用などに関し、国の支援制度も含め、ご相談を承っておりますので、お気軽にご連絡ください。

【農政企画課農地保全係

214-18334】

